



請願の委員会審議後、プラカードを掲げて開票を求める市民ら=小平市役所前で

小平市が五月に実施した都道計画を問う住民投票で、市議会総務委員会は十日、市民グループ「小平都市計画道路に住民の意思を反映させる会」が提出した開票と結果の公表を求める請願を賛成一、反対五の反対多数で不採択とした。生活者ネットが賛成、自民系の政和会と民主系のフォーラム小平、公明、共産が反対した。（北爪三記）

住民投票は五万一千十人が投票したが、投票率は35・17%と成立要件の50%に届かず、不成立となった。会は開票を求める約七千人分の署名を市に提出したほか、情報公開請求を非公開とした市の決定に対し、取り消しと公開を求める訴訟を東京地裁に起こしている。

請願に添えられた署名は一万三千五十六人分。会の共同代表水口和恵さんは趣旨説明で「住民投票の結果は市民にとって大きな財産であり、中身を知るのは市民の当然の権利」と訴えた。

質疑が終わった後、請願の継続審議を望む意見が出たが、賛成は二人（生活者ネット、公明）と少数だったため採決へ。反対した議員は「開票判断は裁判で決着を付けられる」「(住民投票条例を可決した)議会の立場を尊重することも重要だ」などと述べた。

共同代表の馬場悦子さんは「失望した。一万三千人ものが署名したのに、市民の気持ちをくんでいない」と話した。審議後、傍聴した市民ら三十数人は市役所前に立ち「開票してください」と書かれたプラカードを掲げて沈黙のアピールをした。